

幼兒性行評定尺度に就て (上)

淡路圓治郎

一、序

教育の第一歩は生徒の状態の認識から始まります。殊に幼稚園の教育では、一層兒童の状態を知るこゝが大切です。兒童の状態の中でも、特に各個人の發育狀況を確實に知るこゝが肝要で、この點が曖昧であれば、折角の保育が適切を缺くこゝを免れません。

従來、幼稚園では兒童の状態の調査が一般に忽かな嫌があり、殊に發育狀況の診査は寧ろ投げ遣りにせられてゐる有様です。それでも、身體の發育狀況に關しては、不十分乍らも、近頃では診査を行ふ向がふえました。教育上一倍大切な精神の發育の方面は殆んど閑却せられてゐる云つてもよい程です。

尤も、特殊の兒童に知能検査を施したり、また學術的興味から能力を測つたりした場合は無いでもありませんが、一定の教育計畫に基いて眞に保育の役に立つ診査を行つてゐる幼稚園は、残念乍ら、その數に乏しい云はねばなりません。

その證據には、性能診査法があれだけ發達して來たのに拘らず、就學年齢前の兒童に適用すべき方法だけが、未だ標準化せられる迄に到つてはるません。即ち滿四五歳以下の兒童に用ひられる診査法は十分に信頼に値するものが見當らないといふ始末です。之はその方面からの要求が少い爲に、自然、研究が後廻しにされてゐるからではないかと思はれます。

然し、最近では幼兒知能検査の制定に着手する學者も出ましたし、私自身も幼兒用精神發達診査検査の標準化に努力を

致してゐますけれども、夫等はすべて能力の發育に關するもので、幼兒の情意活動殊に性行の診査法はまだ工夫さへもせられては居りません。

私の考では、人間の知力は生來の遺傳によつて規定せられる所が多く、此方面での教育は結局各自の生來素質を、天賦の厚薄の儘に、夫々可能の限度に迄、展開するこゝが出来るやうに、兒童の内外の事情を適當に配慮し整備するこゝを旨とすべきものであり、この點に於て智育は兒童の生れ付きを引き出すこゝに外ならぬものと信じますが、人間の情意性即ち性行は生來性よりは寧ろ後天的の諸事情によつて強く規定せられ、殊に經歷、境遇等の支配を受ける所が尠くはなく、此方面での教育は一定の理想に近づき得るやうに専ら兒童の性格の鍊磨陶冶に力を注ぐべきであり、従つて德育こそ教育者の努力の一倍效驗を現す方面で、教育の本領はまた實に茲に存すべきものと信じます。

ところが、前述のやうに、兒童の知力の發育に關してこそ、近頃では些か乍らも診査法が工夫せられてゐますものゝ、一層大切な德育の對象たるべき情意の發育に關して、何等計畫的な性行診査の試みさへされてゐないのは、遺憾千萬なこゝであります。

嚴密に申せば、情意の活動は知力の活動に比して把へ難い性質がありますから、性行の診査は、能力の診査に較べるこゝ、方法上また實施上、遙に困難であり面倒であるこゝを免れませんので、勢ひ閑却せられ勝ちなのでありませうけれども、工夫によつては左程困難な方法を用ひずとも、また割合に面倒な手数を要しないでも、實施し得られ、しかも教育上には相當に役立ち得る途もあるのですから、改良は漸次加へるこゝとして、差し當りこの種の便法を試みられんことを希望いたします。

一、性行評定尺度の要件

幼稚園で用ひられる性行評定尺度は研究上の目的よりは寧ろ教育上の目的に役立つこゝの方が肝要ですから、餘り學術的なむづかしいものよりは、平易簡便のものゝ方が適切であることは申すまでもありません。

私共もこの幼児性行評定尺度の立案に際しましては、特にこの點に十分な注意を拂ひ、次のやうな配慮をいたしました。

(甲)、性行項目の選び方

一、性行評定尺度の項目は、學術上の興味から出發しないで、純教育上の要求から出發して、選定せらるべきこと。從つて所謂個性心理學的調査法なきに捉はれないで、保育の目的に協ふやう實用的見地から取捨せらるべきこと。評定さるべき性行は何處までも、保育上有意義なものゝみを選び、直接陶冶の對象となるか、または陶冶の場合に特に留意すべき肝要なものだけに限ること。即ち、性行診査標は徒らに精密な個性心理學の目次にならぬやう注意すること。

二、評定さるべき性行の項目は、幼稚園兒童に於て特に顯著に認められ、具體的に觀察し得られる行動上の特徴中から選ぶこと。この年齢的時期に於ては現れないで、後の時期に到つて漸く現れて来るやうなものや、またこの年齢時期に於て現れても、極く輕微若くは明瞭にしか現れないで、觀察し難いやうなものは省くこと。また純主觀的で保姆の人々が外部から觀察が出来ない事柄や、また推察はしても當推量になり易い事柄はなるべく避けて、兒童の言語舉動作業その他の具體的行動の上に客觀的に現れ、外部から比較的容易に把握し得られる方面だけを限つて評定すること。

三、性行評定尺度の項目は、特に幼稚園の保育に於て、實際に助成若くは矯正し得られる性行を選ぶこと。この年齢時期に於てはまだ助成若くは矯正が困難であり、または助成若くは矯正が反つて害悪があるやうな事柄、或は現在の保育方法を以てしては、到底助成若くは矯正が出来難く、たゞひ助成若くは矯正を試みても効果が薄いやうな事柄は寧ろこの期の評定尺度からは除外し、相當に助成若くは矯正の實を擧げるこゝが出来、しかもその結果が適切であり得るやうな

事柄を選んで、評定尺度の項目を定めること。

(乙)、評定の方法

四、児童の性行の評定は幼稚園の保母の人々が現在の素養の範囲に於て實行し得られる方法を用ひ、特殊の訓練若くは長期の習熟を必要とする如きものは避けること。従つて所謂の實驗、検査等の面倒な方法よりは、日常馴れてゐる觀察を利用する方が、遙に適切であることになります。

五、しかしその觀察の方法も煩雜なるものはなるべく避け、保育中に自然に觀察し得られるやう工夫すること。保母の人々が現在の勤務状態に於て、あまり時間と努力を犠牲に供しないでも、觀察し得られるやう配慮すること。

(丙)、記入の手續

六、児童の性行に關する評定は之を一定の様式に従つて記録に止め、その後の保育に活用しなければなりません。評定は單に記録することが目的ではないのですから、記入の手續は有用なる限りに於て、なるべく簡單にすることが肝要です。餘り細かな點數をつけたり、澤山の段階に分けたりすることは、面倒だけで、無意義なものです。私共は三段階か、精々五段階位にわけて、品評することにいたしませう。

七、記入は單に児童の性行の現状を靜的に示すのみに止まらず、保育期間中の發達過程を動的に現はし、陶冶の効果を如實に示し得る如く工夫すること。この場合も亦た煩雜に流れぬ用心は、どこまでも、必要であります。

(丁)、結果の利用

八、性行評定尺度は單に児童の性行上の特徴を知るのみに止まらないで、之を本として保育上の適性的對策が講ぜられ、また保育の効果を窺ひ、今後の保育の改善の懸りを得るやうでなければなりません。即ち之によつて各児童の性行を確めて、助長若くは矯正を要する教育上の力點を明にし、また助長若くは矯正の結果を各児童の性行の變化に求め、之

によつて保育の方法を吟味反省しなくてはなりません。保育は實に兒童の性行の評定より出發して、性行の評定に歸着すべきものであります。性行評定尺度は、保育の出發點並びに歸着點として、換言すれば保育の指針並びに監査として、相當に役立ち得るやう工夫せらるべきで、記入をするだけで能事畢れりすべきではありません。

三、性行項目の選定

性行評定尺度の制定に當りまして、私共は第一着手として、性行項目の選定のために、倉橋先生の御配慮の下に、お茶の水幼稚園みどり會員の方々の御援助を受け、次の試みをいたしました。

この試みは、幼稚園兒童に於て比較的に觀察し易く、しかも教育上有意義であり、その助長若くは矯正が難しくないやうな性行は如何なるものであるかを知ることを目的とするもので、之によく、用ひらるべき評定尺度の項目を定めやうとしたのでした。

私共は昭和七年秋、次のやうな印刷物を東京市内の幼稚園十數ヶ所に配布し、二ヶ年以上の保育の経験をもつ先生方に記入回答を求めました。

幼児性行評定尺度作成に就てのお願

幼稚園名	貴名

今度お茶の水幼稚園で幼児性行評定尺度を作ることになりました。その資料を取捨いたしますに就て、貴下の御援助を仰ぎたく次の二ヶ條の御願をいたします。御迷惑乍ら御答へ下さい。

(一) 第一のお願

1、下の五十二對の性質をよく讀み、保育上の御經驗から考へて、特に觀察しやすいと思ふ箇條には左端の番

號に圓「○」をつけ、特に觀察しにくいと思ふ箇條には番號に三角「△」をつけ、觀察がむづかしくもなければやさしくもないと思ふ箇條は番號をそのままにして置いて下さい。なほ敘述が曖昧で意味がわかりかねる箇條は、番號をバツ「×」のしるしで消して下さい。

2、一對の性質の中で、保育上助成したいと思はれるものゝ方へは括弧の中へ（十）、保育上矯正したいと思はれるものゝ方へは、括弧の中へ（二）のしるしをつけて下さい。また特に助成の必要の大なもの、若くは特に矯正の必要の大なものがありましたら④若くは⑤のように（十）（二）に○をつけて下さい。なほ保育上助成若くは矯正の必要を認めず、自然に任せ置くべきものと思はれる箇條に對しては、括弧の中に記入をしな

いで置いて下さい。

- 3、右に聯關して、實際教育上助成若くは矯正の特に困難と思はれる箇條には赤線を引いて下さい。
- | | | | | | | |
|----|----------------|-----|-----|----------|-----|-----|
| 1、 | 氣むづかしい | () | () | 快活である | () | () |
| 2、 | 氣分にむらがない | () | () | 氣分が變りやすい | () | () |
| 3、 | 容易に感情を示さない | () | () | 無邪氣である | () | () |
| 4、 | つまらねこころを氣にかけない | () | () | 神經質である | () | () |
| 5、 | 物事に注意しない | () | () | 物事に興味をもつ | () | () |
| 6、 | 正直である | () | () | 嘘をつきやすい | () | () |
| 7、 | 興奮しやすい | () | () | 落ついてゐる | () | () |
| 8、 | 敏感である | () | () | 鈍感である | () | () |
| 9、 | 泣きやすい | () | () | あまり泣かない | () | () |

10、	思慮深い	(輕卒である	(
11、	あきつほい	(根氣づよい	(
12、	氣が散らない	(注意がまごまらない	(
13、	氣が弱い	(勝氣である	(
14、	亂暴である	(おこなし	(
15、	敏捷である	(まだるくてのろい	(
16、	ひごの厄介になりたがる	(自分のこまは自分でする	(
17、	自信をもつて行動する	(ひごの云ひなり次第になる	(
18、	陰氣である	(元氣である	(
19、	目的をきめて行動する	(行き當りばつたりである	(
20、	物事を知りたがらない	(知識欲がつよい	(
21、	工夫をこらす	(獨創的な所がない	(
22、	ものを粗末にする	(ものを大切に	(
23、	几帳面である	(だらしがない	(
24、	ひごりほつちで遊びたがる	(ひごと一緒に遊ぶ	(
25、	ひごのこまに干渉しない	(お節介をや	(
26、	よく喧嘩する	(あまり喧嘩しない	(
27、	ひごの面倒を見る	(ひごを助けない	(

28	人真似をする	(ひみの先に立つ	(
29	秩序を守る	(もめごみを仕出かす	(
30	ひみのすることくに氣をこめない	(ひみのすることくに心をくばる	(
31	自分の権利を守る	(自分の権利に無頓着である	(
32	威張りたがる	(威張らない	(
33	ひみに同情する	(冷淡である	(
34	利己的である	(利己的でない	(
35	親切をつくす	(不親切である	(
36	我儘である	(自分勝手はしない	(
37	容易に怒らない	(怒りつほい	(
38	ねたみ深い	(ひみをそねまない	(
39	おしやべりをしない	(おしやべりである	(
40	だんまりやである	(無口ではない	(
41	出しやばらない	(出しやばりたがる	(
42	人前では氣がねをする	(他人のゐる所でも混亂しない	(
43	すなほである	(剛情である	(
44	ふざけたがる	(まじめである	(
45	淡泊である	(執拗である	(

46、	無作法である	()	()	行儀がよい	()	()
47、	長上に服従する	()	()	やゝもすれば反抗する	()	()
48、	目が放せない	()	()	監督者がゐなくとも安心が出来る	()	()
49、	他人の批評に感じる	()	()	他人の言を氣に止めない	()	()
50、	ひこの物を欲しがる	()	()	ひこの物を欲しがらない	()	()
51、	卒直である	()	()	かくしだてをする	()	()
52、	よくすねる	()	()	あまりすねない	()	()

(二)第二のお願

目下保育中の兒童のうちで、あなたが教育上特別の注意を拂つてゐられる兒童が御座いましたら、その兒童のもつてゐる性行の特徴中顯著なものを敘述して下さい。

この印刷物中、第一問の五十二對の性質は、兒童が幼稚園の内外で一般に示すに覺しい性行上の特徴を手當り次第に拾ひ出したもので、しかも相互に兩極端をなすやうなものを適宜組合せて對にしてある。回答者は自分の平素の經驗から考へて、三つの質問に應じて、適當に符號を附して行けばよいので、わからぬ箇所は強めて答へなくともよろしい。

第二問は現に取扱つてゐる兒童の中で、保育上問題となつてゐるか、或は特別に注意を拂つてゐる兒童が、現に平素示してゐる性行上の特徴中顯著なものを敘述すればよいので、用語はむづかしい學術語を用ひる必要はありません。(未完)